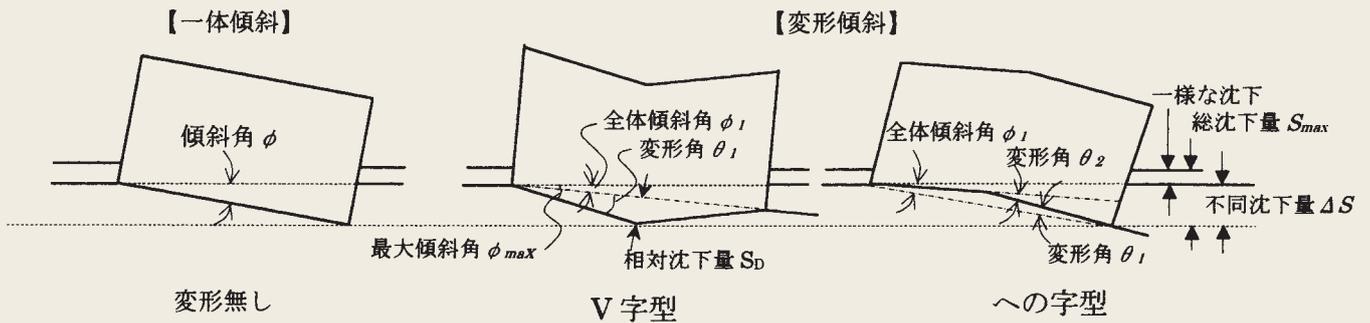


参考資料

沈下傾斜の形状分類



傾斜角と機能的障害程度の関係

傾斜角	障害程度	区分
3/1000 以下	品格式技術的基準 レベル-1 相当	1
4/1000	不具合が見られる	2
5/1000	不同沈下を意識する 水はけが悪くなる	
6/1000	品格式技術的基準レベル-3 相当、不同沈下を強く意識 し申し立てが急増する	3
7/1000	建具が自然に動くのが顕著 に見られる	4
8/1000	ほとんどの建物で建具が 自然に動く	
10/1000	排水管の逆勾配	5
17/1000	生理的な限界値	

不同沈下の原因例



変形角と損傷程度の関係

変形角	障害程度	区分
2/1000 以下	損傷が明らかでない範囲	1
2 ~ 3/1000	建付と内外壁の損傷が5割 を超え損傷発生が目立つ、 内外壁の損傷は0.5mm程度、 建付隙間3mm程度、木工 仕口隙間が2mm以下	2
3 ~ 5/1000	損傷程度が著しくなる。 基礎亀裂の拡大傾向が見ら れ、無筋基礎、内外壁の損 傷が0.5mm程度、建付隙間 5mm程度、木工仕口隙間 が2mmを超える	3
5 ~ 8/1000	多くの損傷発生が5割を超 え顕著、有筋基礎でも多く の建物で0.5mmを超える亀 裂、内外壁の損傷は1mm、 建付隙間は10mmを超え、 木工仕口隙間4mm程度以 上となる	4
8 ~ 12/1000	損傷程度はさらに著しくな るが損傷発生率は頭打ち塑 性的傾向を示す。有筋基礎 でも1mm程度の亀裂、内 外壁の損傷2mm程度、建 付隙間15mm程度、木工仕 口隙間5mm程度となる	5

修復工法選定手順

